

# 「維新の三傑」と山口とビール



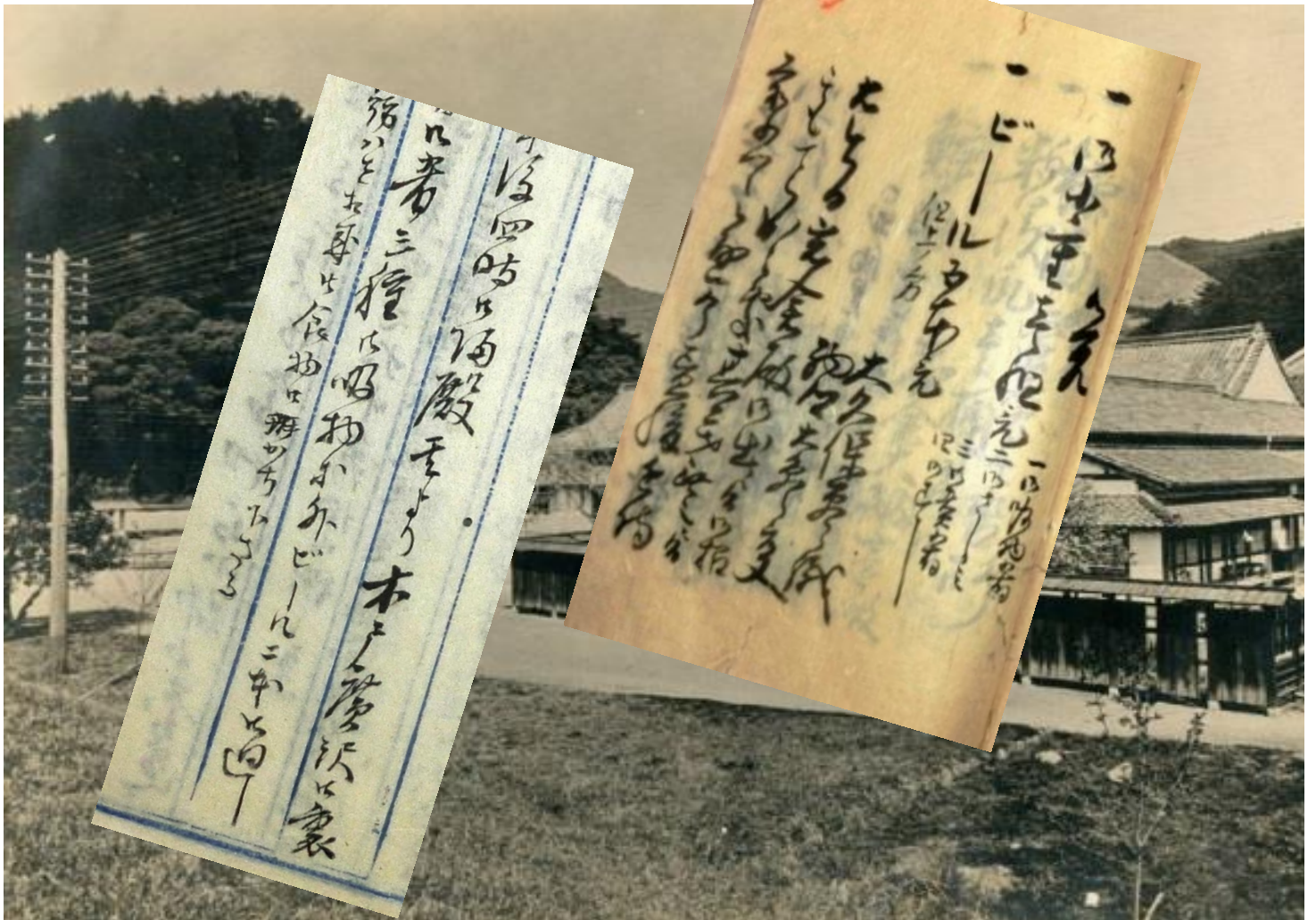
木戸孝允



西郷隆盛



大久保利通



明治4年1月、大久保・西郷、岩倉に随行し山口へ。  
11日、毛利家からビールを供される。

## 勅使岩倉卿御下向一件 毛利家文庫 1 雲上 68

明治4年(1871)1月、岩倉具視が明治天皇の勅使としての来藩した際の記録です。岩倉一行は1月6日に三田尻に着いた後、7日から14日まで山口に滞在しています。この間の岩倉一行の動向を知る基本資料です。

覚

一 御小重吉組充

二 御さしみ

三 御煮肴

四 御すし

一 **ビール五本充**

但上ノ分 (大久保利通) **大久保参議**  
(西郷隆盛・鹿兒島藩大参事) **西郷大参事**

右今日岩倉殿御出二付、御招 (勅使岩倉具視)

をも可被成候処、其義無之二付、

前書之通、**今昼後近侍**

**御使者を以被差贈候条、** 对

御一件方江仕出御沙汰候事

(明治4年) 正月十一日 (毛利家) 家職局

○出納書江及沙汰事

○急念御一件方へも申越候事

明治4年(1871)1月7日、勅使岩倉具視が参議大久保利通、鹿兒島藩大参事西郷隆盛を伴って山口に来ます。版籍奉還(明治2年6月)後、廃藩が意識されるなか、政府に対する毛利家の協力を取り付けるべく、明治天皇の宸翰を携えての来藩でした(鹿兒島訪問は12月)。

9日岩倉は宸翰を毛利敬親に渡し、11日敬親は協力を約束する請書を提出しました。同日、藩庁で岩倉をもてなす宴会が開かれます。この宴会に大久保と西郷は招かれていませんが、両名には毛利家から料理とビール5本が届けられました。当時ビール1瓶は銀28匁もする高価なものでした(徳山藩の殿様が使う「御膳酒」1升が7~9匁)。この時、大久保は山口道場門前町の安部平右衛門家、西郷は安部彦十郎家に宿泊しています。二人は山口の町でビールを飲み、料理に箸をつけたことでしょう。

当時、参議木戸孝允も山口におり、たびたび大久保・西郷と面談しています。『木戸孝允日記』に記述はありませんが、揃ってビールを飲む機会があったかもしれません。帰路岩倉一行には御土産として鯨の南蛮煮他が贈られています。

明治3年4月12日、木戸・広沢、知藩事毛利元徳からビールを振る舞われ、酔う。

## 御奥日記

毛利家文庫 19日記 50

明治3年(1870)、毛利敬親と元徳(知藩事)親子の動静を記した日記です。二人の食生活に関する記述も多くみられます。ビールに関する記述も多く、すでに明治3年時点で、敬親・元徳がよくビールを飲んでいたことがこの日記からわかります。

四月十日雨  
(略)

毛利敬親  
老公夕方御会議御聴被遊後、木戸孝允・広沢實臣木戸・広沢始、權大參事・大監察被召出、御吸物御着三種二而御酒頂戴被仰付候事

四月十二日晴

毛利元徳  
知事様朝御拜等御定之通午後四時御帰殿、其より木戸・広沢御裏(木戸孝允・広沢實臣)江被召出御酒頂戴被仰付、御着三種御吸物等外ビール二本御廻し

之事 (略)

老公御殿中静閑、(シャンパン酒カ)広沢らサンハン酒六本・海苔意箱献上、調進廻江御預ケ二相成之事 ○(略)

明治2年(1869)末、山口藩諸隊の常備軍改編問題をきっかけに、不満をもった諸隊脱退兵が「脱退騒動」を起こします。明治3年1月、脱退兵らが山口の藩知事公館を包囲し、関門を閉鎖する行動に出ました。この重大事件に対し、木戸孝允は自ら軍を率い2月に反乱を鎮圧しました。3月、90名を越える関係者に斬首などきびしい処罰を下しましたが、4月初め、上関や徳地で脱退兵が再挙し鎮圧されるなど不穏な空気は続きました。

そうしたなか、毛利敬親と知藩事元徳が木戸や広沢実臣らを招いて宴を催しています。騒動鎮圧に尽力した彼らを慰労する気持ちでしょう。4月10日敬親が木戸・広沢を館に招いて食事と酒(ビールが振る舞われた可能性あり)を、12日今度は元徳が両名を招き食事と酒、そしてビールを振る舞っています(「奥日記」)。『木戸孝允日記』同日条には、「御夫婦様御揃にて御酒を賜ふ、不覚大酔、十二字(ママ)頃退散、広沢も同様なり」とあります。不覚にも知藩事夫婦の前で泥酔してしまった木戸。この日の酒とビールはどんな味だったのでしょうか。

## 明治初年、「維新の三傑」山口でビールを飲む！

維新时期に重要な役割を果たした大久保利通、木戸孝允、西郷隆盛の3名は「維新の三傑」とも称されます。彼らが、明治3年と4年、山口の地でビールを飲んだことを記す記録が当館に残っています。

幕末期、開港により横浜に外国人居留地が出来ると、彼ら向けにビールが輸入されるようになりました。明治になると、横浜や東京に西洋料理店や牛鍋屋ができ、ビールや西洋の酒が提供されました。明治3年にはノルウェー人コーブランドにより横浜にビール工場が建設されるなど、次第に国産ビールも出回りはじめます。しかし、明治初期にはビールの値段はまだ高く大変な高級品でした。ビールは、社会の富裕層が、特別な時、特別なもてなしのために飲むものでした（参考：キリンビール株式会社編『図説ビール』）。

毛利家文庫には、毛利家（敬親・元徳）が明治3年頃よりビールを飲んでいたことを示す記録があります（江後迪子『萩藩毛利家の食と暮らし』）。そのなかに、山口における西郷・大久保・木戸とビールとの関わりを示す記述があるのです。

今回はこれら資料を紹介します。「維新の三傑」が山口でビールを飲む。近代日本のかじ取りをした彼らには、ビールはどんな味がしたのでしょうか。

